

やってみたい!

スポーツ少年団!

スポーツ少年団とは、「子どもたちの健全育成」を目指す、日本体育協会の事業の一つ。全国に組織されており、入団した子どもたちは、主に、土日などに集まってスポーツを楽しむ。春日部市のスポーツ少年団の魅力に迫った。

子どもたちや親から信頼される指導者を育成していきたい!



平成27年9月に行われた親子スポーツのつどいの様子。

失敗を恐れず挑戦する子を育む

現在、春日部市スポーツ少年団は、サッカー、軟式野球、バスケットボール、バレーボール、剣道、ソフトボール、柔道、ソフトテニス、体操の9種目58単位団がある。また、埼玉県は指導者数や団員数の多さで全国1位。春日部市は、県内の人口20万人以上の市でスポーツ少年団の指導者数や団員数が県内2位(※)。全国的に見ても子どもたちの個性を伸ばす環境が整っている。

約40年前から春日部市スポーツ少年団の活性化に尽力してきた同少年団の吉田敏雄本部長は、その特長は大きく四つあるという。

「一つは『交流』。例えば、スポ少と老人会による三世代交流イベントが行われています。地域の人が子どもたちの顔を覚えて、見守りにつながります」

市スポーツ少年団親
それ以外にも、春日部
広場の四隅で野球
をしていた子ども
たちを集め、豊春
ガーズを創団した
吉田本部長。

入団すると、普段見られない子どもの顔が見られます



「子どもを教えることによって学ぶことも多いです」と利根川さん。

子スポーツのつどいなどを開催。平成27年9月に行われた同イベントには、総勢約1650人も人が参加。親と子が一緒にになり、スポーツを楽しんだ。さまざまなイベントを行うことで、子ども同士や、親子、地域との交流が生まれている。

「二つ目は仲間づくりを大切にしていること。学校でいじめられる子がいたら仲間になるよう指導もしています。三つ目は礼儀や感謝する心を身につけられること。そして、四つ目は指導者に対する育成に力を入れていることです」

「やってみせ、やらせてみせて、できたら褒める」ことを徹底して伝え、怒鳴ることを禁止。だから、子どもたちは失敗を恐れずに挑戦し、伸びていく。

野球の楽しさを教えてあげたい

利根川友和さんは、春日部市スポーツ少年団内牧少年野球クラブの指導者として、17年前から活動をしている。指導のモットーは「野球の楽しさを教えることだ」。

「子どもたちは一人ひとり伸びるスピードが違う。一気に上手になる子もいれば、3年かかる子もいます。大切なのは、うまくない子をよく見て良いところを探して『ここが上手にできているよ。すごいね』と褒め、楽しいと思ってもらうこと。できなかったところがあれば、『今日ではできなかったけれど、来週はできるようになる。次回、また頑張ろう』と勇気づけ、次も来るように促します。続けることで少しずつ伸びていきます」

愛情あふれる指導によって、素振りもできなかった子がホームランを打てるようになるところがある。その瞬間、指導者をやっていてよかったとつくづく実感するという。さまざまな魅力にあふれる春日部市スポーツ少年団。門戸を広く開き、団員も指導者も募集中だ。

